

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

(責任者名)	田村昌彦
(役職名)	教授

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	<p>本学教務課と連携して、プログラムの履修・修得状況を管理する体制を整えている。具体的には、学習管理システムである「UNIVERSAL PASSPORT」を活用して、受講者ごとの出席状況・課題進捗状況・単位修得状況を確認できる。具体的には、本システム上で講義資料および課題の公開や授業評価アンケートの実施が可能である。</p> <p>さらに、各学生の講義への出席状況や課題の進捗状況、あるいは授業評価アンケートの結果などを、本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会をはじめとした関係教員間で共有できる。これらを活用することで、本プログラムの履修・修得状況を点検・評価することが可能である。</p>
	学修成果	<p>情報リテラシーⅡにおいては、授業の進行状況に合わせた課題を課すことに加え、実施にデータを分析し、その結果をプレゼンテーションの形式で発表される課題を課す。これらの取り組みや成果を評価することで、特にデータを読み、説明するといった、その扱いについて学修成果を評価できる。</p> <p>また、IT基礎講座においては、各回に小レポートを課すことで学生の学修成果を評価する。IT基礎講座では社会においてデータサイエンスやITがどのように活用されているかを教える科目であるため、各回の小レポートによって特に日常生活や社会の課題を解決する技術への理解について学習成果を評価できる。</p>
	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学教務課と連携して、情報リテラシーⅢにおいてもIT基礎講座においても、受講生全員に対し授業評価アンケートを実施しており、情報リテラシーⅡおよびIT基礎講座それぞれへの理解度および満足度を測定できる。授業評価アンケートでは、定量的評価を目的とした多肢選択式項目に加え、自由記述項目も設けており、学生の本プログラムにおける理解の程度を確認することも可能である。</p> <p>その結果を、本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会をはじめとした関係教員間で共有し、分析・検証することで、学生の内容の理解度をより向上させるための改善体制を整えている。</p>
	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>情報リテラシーⅡおよびIT基礎講座、各科目の期末において、本学の学習管理システムである「UNIVERSAL PASSPORT」を用いて、他学生への推奨度を問うアンケートを設け、各科目の他学生への推奨度を測定する。また、各科目の授業評価アンケートや、各授業回における課題の中に見られる、本プログラムの有益な点についての意見や感想などの記載も活用する。</p> <p>それらの結果については、できる限り多くの学生の履修につなげるための周知の取り組みに活かす資料にするとともに、各科目をより学生にとって有意義な授業とするための改善に活かす資料とする体制を整えている。</p>
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムにおける情報リテラシーⅢについては、必修科目であるため全学生が確実に受講できる体制がすでに構築されている。そのため、学生が円滑に本科目を修得できるよう、学習支援体制をより改善するための検討を進めていく。</p> <p>IT基礎講座については、担当教員による授業改善の検討会を実施するなどして授業内容の改善を進め、履修ガイダンスや本学ホームページ上での周知などを通じて履修者数・履修率向上を図る。</p> <p>これらについては、履修者数や授業評価アンケートの回答を指標として、本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会をはじめとした関係教員間で分析・検証する体制を整えている。</p>

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会にて、本プログラムの修了認定者の名簿を適切に管理する体制を整備している。また、本学就職課と連携して、修了者の進路先を把握し、卒業後の進路・社会での活躍状況の実態を可能な範囲で調査する。さらに、本学就職課が卒後1年の時点で卒業生および卒業生の進路先を対象として行っている調査を活用し、本プログラムを修了した卒業生における採用状況や業務状況、企業による評価を可能な範囲で把握する。それらのデータを、本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会をはじめとした関係教員間で分析・検証する体制を整えている。</p>
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本プログラムにおけるIT基礎講座においては、愛媛県内の数理・データサイエンス・AIに関連した実務に携わる企業人に協力いただき、外部講師として講演いただいている。これら協力者と本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会のメンバーとで年に6回程度に懇談の場を設けている。また、愛媛県庁の産業人材について管轄する部署とも連携し、地域におけるIT人材の育成についての情報や意見を交換する機会も整備している。</p> <p>これらの体制を通じて、地域における本学の教育プログラムの意義、カリキュラムの改良、具体的な教授内容・方法などを話し合い、産学連携体制を重視した教育プログラムの改善を図っている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		<p>情報リテラシーⅢにおいては、グループでのデータ分析・プレゼンテーションの実施を取り入れることで、学生同士の相互交流といった、学ぶ楽しさを感じ得る方法を取り入れている。</p> <p>IT基礎講座においては、数理・データサイエンス・AIに関連した実務に携わる企業人による最先端の実践や、社会情勢の解説を講演いただくことによって、現代社会におけるそれら技術を学ぶ意義を強く伝えられるよう意図している。</p> <p>これら取り組みについて、学生による授業評価アンケートや課題への回答内容などを活用し、本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会をはじめとした関係教員間にて評価し、改善につなげている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>		<p>各年度の授業実施前に科目担当教員や関わる学外の協力者との打ち合わせを通じて、最新の社会状況の把握に努め、教育内容に反映させている。特にIT基礎講座においては、愛媛県内の数理・データサイエンス・AIに関連した実務に携わる企業人の協力を得ており、これら外部講師による具体的な活用事例やそれを活かす企業人のロールモデルを示すことで、より具体的に数理・データサイエンス・AIを社会で活かすことを理解できるよう図っている。</p> <p>これら取り組みへの評価は、学生による授業評価アンケートや課題への回答内容などを活用する体制を整えており、各年度の授業内容を最新とし、その水準を維持・向上させるための改善を図っている。</p>